

## オカナガンランディング・エレメンタリー(公立の小学校)

自由参加型で地域の子育て支援施設 (Strong Start) について

お話し：アンさん  
レポート：林 桃 恵

### ★概要

オカナガンランディング・エレメンタリースクールはキンダーガーデンから7年生まで340名が在籍する公立の小学校です。2～4歳児（キンダー就学前）とその親を対象とするBC州のMinistry of Education（教育省）が監督する子育て支援プログラム“Strong Start”を提供しています。“遊びから学ぶ楽しみ”を軸とするキンダーガーデン入学までのブリッジプログラムは自由参加型で地域の子育て支援も兼ねています。

### ★“Strong Start”プログラムの ガイドライン

- ①BC州の早期教育のフレームワークに基づき企画する。
- ②思考を刺激し、想像力を豊かにするあそびを提供する。
- ③読み聞かせ、歌やことばあそびを通じて、ことばの発達を促す。
- ④本、アート、手先を使ったあそびから生まれるこどもの発見を大切にする。
- ⑤運動や食の健康を体現する。
- ⑥親や養育者の参加を奨励する。
- ⑦親や養育者と子どもの良好な関係を促進する。
- ⑧支援が必要な場合には地域の関係各所と連携をとったり、紹介をしたりする。

### ★開催スケジュール

月曜日	12:30~3:30
火曜日	8:30~11:30
水曜日	8:30~11:30
木曜日	8:30~11:30
金曜日	8:30~11:30



<常に真剣なまなざしで>

### ★プログラムの目的

- ①月曜日～金曜日まで週5日間開催していて、親と一緒に参加するタイプのプログラムになっています。いつでも参加することができ、参加費は無料です。（BC州の教育省が資金を出している。）プレスクールと同じような設定で進行していて、年齢は0才～6才までのお子さんをケアしています。平均して1日10～12人くらいのお子さんが参加しています。
- ②子どもだけではなく親にも「あそぶ」ということの大切さを教えていくという目的でプログラムを行っています。
- ③家族間をつなぐことで、コミュニティの中での繋がりを深めています。
- ④このプログラムで完結ということではなく、もしも参加しているお子さんやご家庭に支援が必要な場合は、先生の

方から他の支援施設などを紹介することができます。

⑤学校内に施設があることで、いずれ進学する子どもたちを“学校”という環境に慣らすという目的もあります。

⑥プレスクールに入ると“通わなくてはいけない”という状況が発生しますが、このプログラムの利点は自由に行きたい時に行けるということです。親と一緒に参加するというプログラムなので、働いているご家庭には参加しづらいところもありますが、お仕事がお休みの日に参加するなど、柔軟に活用してもらえるところです。

### ★質問

Q：イベントのようなことはしていますか？

A：その年の様子にもよりますが、かぼちゃ畑の遠足は毎年やっています。学校のバスを借りてアームストロングのかぼちゃ畑に親子で行きます。日常では外に遠足にでかけたり、湖に行ったりします。年の最後には湖岸でバーベキューパーティーをします。

Q：参加されているご家族のケアとして、どのようなことをしていますか？

A：産後のケアという意味で、気持ち落ち込んでしまっているお母さんのカウンセリングサービスや、お子さんに発達の遅延が見られるような場合に専門家の方を紹介したりしています。

Q：お父さんの参加は増えていますか？

A：どんなお仕事をされているかということにもよりますが、少し増えていると感じます。何曜日と何曜日というように、お父さんが休みの日に必ず来てくれる方もいます。お仕事のお休みをお母さんと交代にとって、高額になってしまうデイケアへのコストをなるべく抑えるという方もいます。

Q：登録制ですか？



＜登校する子どもたちを出迎える校長先生と＞

A：登録をするのが基本ではありますが、ここに来てもらうというのを大きな目的にしています。Strong Start の他にも、登録をしなくてもよいみんなが自由に来られるプログラムを（アン先生が）持っていて、コーヒーを飲みながらみんなで情報交換をするという感じの場所になっています。そこに歯医者を呼んで歯磨きの講習をしたり、セラピストの方を呼んで話しをしてもったりしています。

また、“フリーランチプログラム”というものも行っていて、みんなで料理をしてランチをして、残ったものは持ち帰ってよいというプログラムになっています。なるべく低所得者の方に来てもらいたいと思っているのですが、実際には本当に手を差し伸べたい人に参加してもらえないのが現実です。

Q：親御さんにも“あそびの大切さを知らせる”ということですが、どんなアプローチをするのですか？

A：まずは自分がお手本になることです。それから、基本的な発達の目安を掲示して、子どもがどういう発達をするかというのを親御さんの目に触れるようにしています。また、サークルタイムなどお話しをしながらで親御さんと関わりを持っています。

Q：子どもとどんな風に関わっていいのかわからない親御さんには、どのような対応をしていますか？

A：先生がそばに座って、自然に親御さんと会話をしたり、子どもが遊んでいるところに先生が入って、子どもとのやりとりを親に見せて行くような関わり方をしています。やり方を「教える」という風になってしまうと、相手が「違うのかな？」という意識を持ってしまいがちになります。このプログラムはドロップインで、楽しいと思って帰ってきてもらうのが目的なので、教えるという立場ではなく、繋ぐという立ち位置でアプローチしています。

Q：このプログラムをしていて「よかった。」と感じるのはどんな時ですか？

A：やはり、戻ってきてくれたときに「よかった。」と思います。子どもたちが何かを学んだり、親御さんが安心感を覚えて戻ってきてくれたのだと感じたときが一番嬉しいです。あそびの大切さは一日で学べるのではなく、長い目で見て長く育てていくものなので、そういう意味でも戻ってきてもらうことは大切です。

Q：この施設の情報はどのようにして知ることができるのですか？

A：口コミが多いです。小学校で兄弟に小さいお子さんがいる方を見かけたときに、「ここで、こういうプログラムがあるよ。」と紹介することもあります。また、お母さん同士 Face book で「Strong Start に行けば？」と会話をしているのもよく見かけます。やはり、SNS と公園でのお喋りの口コミが多いです。

### ★感想

親御さんにあそびの大切さを知らせるにあたり、どのような方法でアプローチをしていくかを伺ったときに、関わり方を教えるのではなく“つなぐ”役割をしているのだと先生がおっしゃっていたことがとても印象的でした。あそびの大切さは日々の積み重ねによって育まれるものなので、まずは Strong Start に足を運んでもらおうという姿勢が素敵だと思いました。Strong Start に流れる空気がとてもおおらかでありながら、アン先生が全体と個人をしっかり把握されているので、Strong Start に来る親子が安心して過ごせる場所になっているのを感じました。



<アン先生と一緒に親子で楽しむひと時>